



核不拡散 (NPT)再検討会議の成功めざしてパレード (日本原水協提供)



433

編集発行人 針谷宏一
 治安維持法犠牲者
 国家賠償要求同盟

〒113-0034 東京都
 文京区湯島2-4-4

平和と労働センター・全労連会館

電話 03(5842)6461

FAX 03(5842)6462

http://www7.plala.or.jp/tian

定価 50円

戦後補償の解決は 平和への保障

主な記事

- 各地で同盟本部大会開く……………2
- 国会請願紹介議員一覧……………4
- 顕彰碑 / 三重県「解放運動無名戦士碑」……………5
- 時の焦点 / NPT再検討会議……………5
- 抵抗の群像 / 石垣入工ノ・奈良県……………6
- 同盟歌壇 / 碓田のぼる選……………7
- 北から南から……………7

戦争が引き起こした被害を訴え、解決を求める声が、国の内外から続いています。今日の政治状況のもとで、戦後補償問題は、自公政権下とは変わり始めています。

韓国強制併合一〇〇年の今年、韓国の政府機関「日帝強占下強制動員被害真相糾明委員会」の要求により戦時徴用で日本の民間企業で働かされた朝鮮半島出身者の未払い賃金に関する記録を、日本政府が提供しました。日本の遺骨返還の取り組みは遅々として進んでいませんが、五月に一九九体分が返還されました。

しかし、富山・不二越訴訟は強制連行や強制労働などの不法行為を認めたものの棄却されました。名古屋三菱朝鮮女子勤労挺身隊訴訟は〇八年に最高裁で敗訴が確定していますが、新たに謝罪と補償を求める署名が韓国国内で集められて、日本政府と三菱重工業に提出されました。

戦後65年、「政治の怠慢」が国際問題化してきているのです。今国会で成立したシベリア特措法のように、政治解決を求める声が、戦後補償に取り組む関係者の中で大きくなっています。

戦後補償を求める人たちの共同を強め、治安維持法犠牲者に対する国の謝罪と賠償の実現を求める声をいっそう強力にひろげていきたいと思います。

各地で同盟本部大会ひらく

厳しい財政問題も討議

青森県

6月19日、青森県本部第21回大会が青森市で開催され、県内から33名が参加しました。

野村昭俊副委員長の開会挨拶に続き、来賓の吉俣洋日本共産党書記長、杉山俊雄国民救援会青森県本部事務局長から激励と連帯の挨拶、各地を駆け巡って活躍する高橋千鶴子衆議院議員(本部顧問)からメッセージが届けられ代読されました。

議案提案、財政報告をつけた後、厳しい財政問題、会員拡大、署名、地方議会請願の経験などが議論され、「特別決議」を含め提案が拍手で採択されました。また「弁護士布施辰治」の映画予告DVDが上映されました。

時効不適用条約など議論

秋田県

5月29日10時半から秋田市内で第21回定期総会が開かれ、日本政

治に「新しい時期」を切り拓いた情勢下での参院選挙勝利と県同盟結成20周年記念誌出版、新役員選出を行いました。

近江谷会長が活動報告と運動方針案を提案、請願署名運動では全国で830万の署名を積み上げ、秋田県は個人署名30万1456、団体署名1万4908。しかし今年の紹介議員では民主党の豹変から紹介拒否の議員も増え、新たな困難を乗り越えようと訴えました。

討論では有権者比10%目標で署名活動、女性部の確立と女性会員の拡大、また「時効不適用条約」批准の署名運動の提起、同盟運動の目的についての規約改正案の意見など、12名が発言されました。

国民運動への確信をつかむ

山形県

5月23日、県本部第24回大会が開催され、柳河瀬精会長が「同盟運動を国民運動へ発展させよう」と題して記念講演されました。大

会方針も同じ基調としたものだったので、会長の講演によって、同盟運動の意義を改めて再確認し、今日の情勢の中で、運動をどのように発展させるかの展望を深めることが出来ました。各支部からの発言も、このテーマに沿ったもので、多様な活動が生きいきと語られ、参加した代議員に元気と確信を与えた大会となりました。

会長は逸見光雄氏が再任、長年事務局長を務めてきた鈴木光子氏が体調の都合で辞任し、瀬野幸男氏が就任しました。

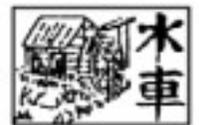
首都東京の責任を自覚

東京都

第33回東京都本部大会は、4月12日開催。昨年は都本部3役が次々と病気で倒れ、延期していましたので、今年は都本部体制の立て直し大会となりました。

顕彰活動の中で新しく建設された葛飾と品川の支部、板橋、新宿の支部女性部の活動など大会参加者に元気をもたらしました。

中央本部の協力もあって、「不屈」都版の定期発行、都本部体制



四月に亡くなった作家の井上ひささんの「絶筆ノート」を読んで胸を打たれました。(最後のペー

ジ)「過去は泣き続けている。たいていの日本人がきちんと振り返ってくれないので(中略)先行きがわからないときは過去をうんと勉強すれば未来は見えてくる。瑕こそ多いが、血と涙から生まれた歴史の宝石」東京裁判三部作「夢の痴」では、戦争責任を曖昧にしてきた戦後政治を鋭く問い、なぜ自分たちはあんなにも大量の血と涙を流さなければならなかったかを国民はもつときびしく問うべきだったとの強い思いを込めた最後の書き下ろしになった『組曲虐殺』では、なぜ小林多喜二が、特高の拷問による虐殺をも恐れずに闘ったかを「うんうん唸りながら」書上げたという。きつと治安維持法で三度も逮捕・投獄された実父を思い重ねて、「過去を軽んじていると、やがて私たちは未来から軽んじられることになるだろう」。遺言のように耳を打つ。(池)

も軌道に乗りつつあります。
治安維持法弾圧とたたかった足跡は都内随所であり、風化させない顕彰活動を強め、首都の同盟としての責任と自覚を高め、組織強化に全力を尽くします。大会では、



新役員として会長宮田勝、田中穰二はじめ副会長6名、事務局長藤本増美各氏が選出されました。

署名数が最高の到達で総会

岐阜県

第23回岐阜県本部大会は6月7日、「アピセ関」で開催。例年は6

月下旬の開催でしたが、参議院選挙前にと柳河瀬中央本部会長の参加もえて開催しました。国賠署名では、中濃、東濃西の2支部が目標を超過達成、岐阜、恵那支部でも目標には至りませんでした。ここ数年では最高の到達で総会を迎えることができました。紹介議員も地元で日ごろから接触している民主党議員が新たに紹介議員に加わるなど、日ごろの活動の大切さを共有できた総会でした。新役員では会長片桐義之、副会長5名、事務局長、事務局長次長6名それぞれ再任されました。

5千筆への展望を拓く

滋賀県

滋賀県本部第22回総会は5月22日、大津市で開かれ、柳河瀬精中央本部会長の激励の挨拶を受けました。

総会は、国賠署名目標4000筆達成は「幹部・会員そして支部の奮闘の結果」と評価、今年度は4000筆を超過達成し、5000筆目標設定への展望を開く、150人会員の早期達成と支部

確立を重視する、地元出身の木興治郎など犠牲者の顕彰活動を広げる、犠牲者顕彰・歴史探訪ツアーを行う、など決めました。会長に川端俊英氏、事務局長に西田清氏が再任され、支部確立をめざして幹事を増やしました。

犠牲者西川治郎さんも発言

大阪府

6月11日、大阪市内で第29回大阪府本部大会を開催、86名が参加。大会では歴史認識(侵略戦争への謝罪・植民地支配への謝罪・治安維持法下の国家犯罪への謝罪)を正すたかいが強調され、また国会請願署名では目標6万筆ですが、昨年の2万6千筆に対し2万7712筆と千数百筆の増で、来年への展望を開きました。

仲間ふやしでは、現勢2228名。最高時現勢を回復して2400名を目指すことを確認。討論では治安維持法犠牲者西川治郎さん(101歳)も元気に発言。また映画「鶴彬 こころの軌跡」上映、大阪山宣集会、反戦兵士阪口喜一郎碑前祭、大阪多喜二祭の取り組

みななど14名が発言、この日入会した映画「弁護士布施辰治 プロデュサー桑山和之氏が各地の上映運動を呼びかけました。大会後の懇親会では筑前琵琶「那須与一」演奏など和やかに交流しました。

大切な学習と支部ニュース

和歌山県

6月5日に開かれた県総会では、「学習」や「楽しい活動」、「支部ニュース」の大切さなどが強調されました。日高支部からは「母べえ」や「鶴彬」の上映鑑賞運動、「坂の上の雲」批判、「日高の革新運動と伝統」の学習が同盟員拡大に結びついていること、支部ニュース「不屈」日高版「が力を発揮している旨の報告。和歌山北支部、伊都・橋本支部からは支部独自のニュース発行で会員の結びつきを強めていること、講演会やバスツアーなどの行楽で「息の長い活動」に備えており、同盟費も北支部ではほぼ100%納入されていることなどの発言がありました。

新会長に鶴田至弘(よしもと)局長に引地延子(よしもと)が再任されました。

国会請願紹介議員一覽

6月25日現在

衆議院

民主党・無所属
クラブ
37名

柳田和己 松崎哲久 大島章宏 福島伸享 横光克彦 松本克龍 藤田一枝 稲見哲男 岸本周平 向山好一 高橋昭一 山口壯 市村浩一 土肥隆一 藤村圭修 北神圭朗 高知圭勉 阿知波充功 岡本充功

津川祥吾 石毛錬子 川島智太郎 鹿野道彦 京野公子 渡部恒三 安住淳 田名部匡代 篠原孝 村井宗明 石川知裕 石藤仁美 工藤千代美 小林千代美 鉢呂吉雄 生方幸夫 首藤信彦 内山晃 空本誠喜

吉井英勝 吉田恵二 佐々木憲昭 笠井亮 志位和夫 高橋千鶴子 安住淳 社会民主党・市民連合 6名 中島隆利 照屋寛徳 重野安正 服部良一 吉泉秀男 阿部知子 城実 日本共産党 9名 塩川鉄也 赤嶺政賢 宮本岳志

参議院

民主党・新緑風会・国民新党
6名

石井俊一 水岡一 広田一 谷岡郁子 山下八洲夫 金子恵美 仁比聡平 井上哲士 市田忠義 大門実紀史 山下芳生 小池晃 紙智子 社会民主党・護憲連合 3名 淵上貞雄 又市征治

政党・会派	議員総数	訪問・要請した議員	訪問率(%)	承諾した議員数	承諾率(%)	要請に対する拒否・未返答
民主党	423	344	81.3	42	12.2	76
自民党	189	100	52.9	0	0.0	0
共産党	16	16	100.0	16	100.0	0
社民党	12	11	91.7	9	81.8	2
公明党	42	21	50.0	0	0.0	0
国民新党	10	7	70.0	0	0.0	1
みんなの党	6	4	66.7	0	0.0	1
無所属ほか	24	16	66.7	5	18.8	0
合計	722	519	71.9	72	13.5	80

年度	衆議院計	参議院計	合計	無所属	系数	松浦
2010年度	54名	18名	72名	2名	慶子	大悟
2009年度	57	6	63			
2008年度	72	2	74			
2007年度	77	3	80			
2006年度	77	3	80			
2005年度	77	3	80			
2004年度	77	3	80			
2003年度	77	3	80			
2002年度	77	3	80			
2001年度	77	3	80			
2000年度	77	3	80			
1999年度	77	3	80			
1998年度	77	3	80			
1997年度	77	3	80			
1996年度	77	3	80			
1995年度	77	3	80			
1994年度	77	3	80			
1993年度	77	3	80			
1992年度	77	3	80			
1991年度	77	3	80			
1990年度	77	3	80			
1989年度	77	3	80			

年度別国会の紹介議員数と署名数一覽

顕彰碑
探訪

三重県「解放運動無名戦士碑」

三重県の「解放運動無名戦士碑」は、1964年11月、松阪市篠田山の市営墓苑に建立されました。

1964年の3月、3・15弾圧を記念してささやかな旧友の会合が開かれ、誰言うともなく無名戦士の碑の建設が話題となり、場所やら資金やらと話が進み、戦前に赤色救援会の責任者であった、松阪市議の石垣国一氏を実行委員長とし、最終的には80余名の建設実行委員会が組織されて、急ピッチで進められたようであります。場所の問題では、3・15弾圧の



犠牲者でもあった梅川文男松阪市長の協力で、墓苑の一等地が提供されたものです。

資材や資金の面でも悩みの種であったようですが、石材業者や建設業者の協力、資金では、市内のかつての活動家はもとより、全国からも思わぬ協力カンパが寄せられ、半年あまりで見事な碑が建立されたものです。

11月には、碑の建設記念と併せて、第一回の合祠祭(143柱)が、多くの活動家と各界各層の著名人の協力を得て盛大に開かれたことが記録されています。

去る4月3日には、国民救援会の呼びかけで、「三重いしずえの会」の組織化を目指し、碑の見学と懇親会が開かれました。

三重県本部

水野修治

5月1日、ニューヨーク・リバーサイド・チャーチの会場で、バン・ギムン国連事務総長は訴えました。

「私たちはかならず世界から核兵器をなくすでしょう。そのとき世界は、みなさんに感謝することでしょう」。

5月3日、NPT国際会議が開幕した冒頭、議長のカバクチュラン氏は報告しました。

「きのう日本から運び込まれた690万の署名をたしかに受け取った。われわれは市民社会の熱意に応えなければならぬ」。

焦点の時

被爆者約100名、日本原水協代表団約1300名、その他合わせて約2000名の

日本からの参加者をふくめ、アメリカ市民1万数千名のニューヨーク大行進は、世界的に関心を集めるとともに、NPT出席の各国政府代表を大きく上げました。

行進の先頭に「野党平和外交」の立場で参加した日本共産党の志位委員長、緒方副委員長、笠井衆

院議員、仁比参院議員の姿もありました。

本番のNPT国際会議は、国際世論を背景に、とくに非同盟諸国やアジア連合諸国の奮闘により、困難な状況を克服して成功をおさめることができました。成否

の力ギとなる最終文書は、結局、全会一致で採択されました。

2014年のNPT準備会に、核保有国は核軍縮についての明確な努力の成果を報告する。

2015年の本会議では、NPT第6条の核軍縮の全面履行のつぎのステップを吟味し検討する。

実は、今回中国以外の核保有国の異論で陽の目を見なかったのですが、準備会からの草案は、2011年に核保有国間で核兵器廃絶をめざす国際会議を開く。

2014年には国連事務総長が「核兵器のない世界」への行程表を作成、提案する。

私たち市民社会の要求そのもののまさに画期的なものでした。

NPT再検討会議

抵抗の群像



警察の拷問にも屈せず

石垣スエノ(旧姓上田)

私は1909(明治42)年3月、奈良県北葛城郡下田村(現下香芝町)の農家の6人兄妹の末っ子として生まれました。13歳のとき父が亡くなりましたが、小学校の高等科まで行かせてもらい、卒業と同時に日本紡績高田工場に就職し

医務室に配置されました。17歳のとき、日赤奈良県の看護婦養成所に入学。日赤和歌山で看護婦と産婆の免許をとりました。

その当時入院患者の井口という和歌山高商の学生さんから小林多喜二の「蟹工船」や「不在地主」などをすすめられました。私は「不在地主」にはとくに深く感動しました。また病院の前に林という印刷屋さんがあり、学生や労働組合の人達が入りしており、私も出入りするようになり、私和歌山署の特高係に尾行されるようになったり、ついには婦長から「勸

告」という形で退職をせまられ、私は日赤を退職することになりました。

日赤を退職した私は上京して池袋にあつた派遣看護婦会に入りました。ここでは、2人の同僚と待遇改善を要求したところ、池袋警察署に連行され、その晩は留置場にとめられました。「他の2人を誘つたのは煽動罪になる。今日のところは許してやる」と釈放されました。やむなく私は奈良に帰ることにしました。

しばらくして和歌山高商出身の清水と竹房と名乗る2人の人が訪ねてきて、「大阪に出て運動に参加するように」と説得され、たまたかいの一員として活動することを決意しました。小川と名乗るオルグの指示にもとづき日紡日高工場の舎監に入り、後に大阪に移りま

10カ月ほどして、舎監をやめ大阪阿倍野付近のアパートに移り、市バスの車掌として就職する準備をしている時のことでした。

天皇・臨検―逮捕・拷問

1932年、「大阪・奈良でおこなう陸軍大演習に天皇がくる」ということで阿倍野付近のアパートなどに警察の臨検があり、私の部屋も検査され、阿倍野署に出頭するように言われました。私はその夜は警察には行かず他所に泊まり、翌朝アパートにもどつたところ、張り込んでいた警官に見つかり捕まつてしまいました。

阿倍野署に連行された私は、衣類をはぎとり、パンツ1枚にして吊り上げる、体にロープを巻きつけ引き回すなどで体も傷だらけにされました。私は口をひらかず頑張りぬきました。結局私は拷問による傷が治るまでということで秋から暮れにかけて約2カ月間、阿倍野署に留置され、やっと釈放されました。下田に帰つた私は産婆を開業しましたが、いつも尾行つきでした。

戦後―村会議員として

1946年に私は日本共産党に入党しました。翌1947年4月おこなわれた戦後第1回のいっせい地方選挙で下田村の村会議員に当選しました。2期目の任期中に下田村は隣接村と合併して香芝町となりました。1951年2月、私は石垣憲弥と結婚し石垣スエノとなり、次の改選期から町会議員の席は夫の憲弥が継いでくれることになりました。朝鮮戦争のころ、重税反対闘争などで3回ばかり自宅を強制捜索され、憲弥が拘留されたこともありました。

今(1991年当時)また政府や自民党、それに民社、公明も一緒にたつて湾岸戦争に加担し海外派兵の突破口をひらこうとしています。支那事変の時もそうでした。一度出兵すると、とめどもなく大きな戦争になってしまうのです。二度と戦争を許してはなりません。

1 石垣スエノは2007年5月1日死去。享年98歳

(「不屈」奈良県版1991年1〜2月号より要約=田辺実)

同盟歌壇

碓田のぼる 選

千葉県 高沢 義人

「弾圧と戦争」体験一時間、声涸れ怒り炎える卒寿の青春
 評 「松戸同盟発会に招かれて」と付記に。思い溢れる。

福井県 元山章一郎

「日米合意」押しつけ鳩山は去りていく怒りわきたつ沖繩の民
 評 県民・国民無視のこの無責任さにただただ怒りあり。

大分県 渡辺 幹生

育て来し牛殺さねばならないと宮崎の農民涙声なり

評 口蹄疫で殺される牛によせる思いはわが子のように。

新潟県 柳川 月

胸つまり涙し聴けり佐藤真子切々と歌う「一本の鉛筆」

評 「上越九条の会発足五周年記念のつどいより」と。

作業所に通う青年笑顔なり「愛」の字のTシャツ汗にじませて

評 ハンディを負いながら明るく働く青年の姿である。

兵庫県 岸本 守

兄の戦死偲びつつ雨の過疎の里に平和行進ヒロシマ目指す

評 反戦平和の思いをあらたにしての平和行進である。

東京都 若林 義人

イラク攻撃を称えし頃の政権に諾うものらに一線を画し

評 イラク攻撃を正当化した勢力の誤まり、今は明白。

静岡県 江川 佐一

集会の講師とは知らず同盟の署名頼めばカンパいただく

評 隣席に坐っていた人に声をかけたのであろう。

岐阜県 和田 昌三

県外の車ずらりと並び居て鮎解禁の朝の賑わい

評 待ちに待った釣人たち。これは有名な長良川か。

和歌山県 中平 喜祥

「か」で始まる言葉は何かと尋ねられ「蚊」と答える記憶力テスト

評 テキストを少し笑っている気配で、ユーモアがにじむ。

北から南から

青森県外が浜町で請願採択

青森県津軽郡外が浜町議会はさ

る6月16日の本会議で「治安維持
 法犠牲者への国家賠償を求める意
 見書」が賛成8、反対5で採択さ
 れました。3月議会では「天皇制
 政治のもとで……」という文言が
 入っているという理由で5対7で
 否決されたのですが、今回文案を
 変えて再提出、採択されたもので
 す。民主党議員は賛成、反対は自
 民党の看板を背負う人々で、遺族
 会の議員は今回は賛成と反対に分
 かれました。

この成果は町議会議員14人中、
 日本共産党の2人の議員の奮闘に
 よるもので、青森県同盟としては
 町村大合併以来はじめての成果と
 なりました。(青森県本部事務局)

東京・ゼッケンつけてアピール

参院選勝利をめざす板橋女性の

つどいが5月8日開かれ、板橋支
 部女性部は全員が黄色いゼッケン
 を着けて参加。山岡富美さんが

「ちあんいじぼうこくばいどうめ

いたばししむ」の頭文字を使っ

たメッセージを読み上げ参加者に
 アピールし会場から満場の拍手で
 迎えられました。

顕彰運動の動き

宇治山宣会 5月30日、山本宣

治生誕121年記念行事を開催。

庄司捷彦氏が「山宣と弁護士 布

施達治」と題して記念講演。明治

から昭和へ弁護士資格の剥奪、検

挙・投獄に屈せず人権と反戦平和

のためにたたかいた、戦後も謀略・

弾圧事件とたたかいた布施辰治の

生涯にふれつつ、「生きべくんば

民衆のために、死すべくんば民衆

とともに」を座右の銘とし命がけ

でたたかいたいた布施の生きざま

が参加者の胸をうち、映画「弁護

士 布施辰治」の普及にも力をそ

そぐことが強調されました。

道南多喜一・山宣会結成

5月22日、函館市で「道南多喜

二・山宣会」設立総会が開かれ宮

田汎同盟中央副会長の記念講演

「多喜と山宣」。ケイ・シユガー

さんらの音楽に100人を超える

人々が参集。会長に斉藤幹雄同盟

道南支部長が選ばれ、会員は13

5人に達しました。(朝野昭夫)

平和の旅
韓国連帯の

東学農民戦争の地全羅道、新羅千年の古都・

慶州や朝鮮王朝時代の味の都全州など訪問

ー見どころいっぱい お申込はお早めにー

今年の韓国平和連帯の旅は、仁川空港からバスで南下し、全羅道で東学農民戦争の史実を学びます。次の普州では治安維持法の犠牲者である上甲米太郎ゆかりの地を訪問。全州は味の都、朝鮮王朝時代の三大名菜、ピビンパをはじめとした料理は旅の魅力の一つです。旅の後半には新羅千年の古都、



慶州 佛国寺

慶州を訪問。世界遺産や伝統舞踊鑑賞など、韓国の歴史・文化に触れ、さらに釜山では活気あるチャガルチ海鮮市場を見学します。日韓の歴史の真実を学び、市民交流で友好を一層深めたい、国賠同盟ならではの旅の企画です。
日程 10月12日(火)～17日(日)
費用 16万5000円(成田発)、16万円(関空発)。上記以外に約6500円が必要です。申込締切8月31日、富士国際旅行社03(3357)3377(小野寺・西須)

第3回伊勢崎多喜二祭

1931年9月6日、伊勢崎の文芸講演会で村山知義・大宅壮一らと検束された小林多喜二奪還事件79周年。

日程・9月5日(日)午前11時 多喜二検束場所(故菊池敏清宅)見学会(要予約)。

午後2時 記念講演会・伊勢崎市文化会館 講師 島村輝・フェリス学院大学教授「多喜二と井上ひさし」『組曲虐殺』をつなぐもの(参加申込・見学予約先)実行委員会事務局・長谷田直之

電話・FAX 0270(25)1130。その他全国からの参加申込は中央本部・藤田取次ぎ090(4527)1129。

【寄贈された図書】

『講座 プロレタリア文学』多喜二・百合子研究会 光陽出版社
『相沢良さんの思い出』宮田汎
『川端ヨネの生涯』宮田汎編

事務局日誌

6月4日 安保改定五〇年6・4集会

6月5日 黒田教授を囲む「歴史の記憶法」懇談会

6月11日 国法協「枯葉剤」ビデオ学習会

6月17日 「不屈」編集会議

6月22日 国際人権活動日本委員会幹事会

6月24日 日本国際法律家協会理事会

2010年号
春季

『治安維持法と現代』

特集 地方議会での「国賠法制定」意見書採択

【主な内容】日韓「併合」100年と治安維持法 = 林洋武、未完の植民地支配と分断の時代に生きる在日朝鮮人 = 鄭栄桓、横浜事件第4次再審・刑事補償決定について = 大川隆司、横浜事件刑事補償決定と同盟活動と課題 = 増本一彦、改定安保50年ー今こそ安保廃棄の世論を多数派に = 早坂義郎、国連女性差別撤廃委勧告について = 堀江ゆり、葛飾ピラ事件最高裁不当判決と今後の闘い = 松井繁明、三重県労働運動の先覚者野口平民 = 山下正行、反戦平和の旗を掲げ折原村に生きた北条英 = 大森弘志など、学習・資料が満載。A5版、定価1000円、送料210円、各都道府県本部でお求めを。



治安維持法と現代を結ぶ総合誌

企画・編集 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟